

弥生時代の墓地の謎

鏡野町内には、古墳時代（三世紀後半～七世紀）に築造された墓（古墳）は約五〇〇基存在しますが、古墳時代の前の時代「弥生時代」の墓は、確実なものとしては二か所しか見つかっていません。

一つは、昭和四十六年（一九七二年）に鏡野中学校校舎建設に伴い発掘調査された、竹田八号弥生墳丘墓です。この墓は、調査前にはすでに半分以上が崩落しており、全容を把握する

に半分以上が崩落しており、全容を把握する

ことができませんでしたが、自然丘陵の頂部を削って整形し、土を盛った「墳丘墓」といわれる墓です。高さ約一・五m、平面形は一辺約十五mの方形もしくは長方形で、角の部分が少し張り出したような形をしており、裾の部分には、墳丘墓をふちどるように河原石が並べられています（列石）。このような墳墓型式は、山陰地方によくみられる「四隅突出型墳丘墓」ではないかと考えられています。

ただ、山陰では四隅突出型墳丘墓が、弥生時代の墓地の中では上

位にランク付けされ、弥生時代後期から終末期にかけて大型化し、山陰特有の王墓へと発展していくのに対し、竹田八号弥生墳丘墓には、墳丘の中に穴を掘って埋めた墓（土壙墓）が十四基、乳幼児を葬ったと思われる土器を棺桶代わりにして埋めた土器棺が四基確認されているものの、王墓のような中心的な埋葬施設や、副葬品などは確認されませんでした。

しかも、築造時期は弥生時代後期初頭頃（一世紀頃）と推定されていますが、これは山陰における四隅突出型墳丘墓の出現よりも早く、なぜ山陰特有の墓が美作で先行して築造されるのか、そして、その後なぜ美作ではなく山陰でこの墓地型式が発達していったのかなど、調査後四十五年

を経過した現在でも弥生時代の墓制の起源を研究する上で、謎を含んでいます。

もう一つの弥生墓地は、布原の葡萄田頭遺跡です。こちらは津山総合流通センター造成工事に伴い、平成七八年に発掘調査が実施

されました。

ここでは、弥生時代後期の木棺の痕跡の残る墓が三十三基、土器棺三基、土壙墓一〇基が確認されました。墳丘の盛土や列石、中心的な埋葬施設もなく、埋葬の方位もさまざまな弥生時代の墓地です。ここから南へ約一〇〇mの所では、弥生時代の集落跡も確認されていますが、出土遺物から年代を推定すると、墓地は集落が廃絶した後

に造られている可能性が高く、一概にこの集落に伴う墓地であるという判断はできないため、弥生時代の墓地と居住地の関係については、現段階では明確な答えを出すことはできません。

この他にも、富地域において弥生墳丘墓の可能性が指摘されている遺跡がありますが、未調査であるため、詳細は不明です。

町内には、弥生時代の集落や土器を出土した遺跡が多く存在しますので、今後墓地遺跡が確認されることによって、こうした弥生墓地の謎が明らかになるのかもしれない。

参考資料：『竹田墳墓群』『葡萄田頭遺跡・横之本谷古墳』『鏡野町史』通史編・考古資料編、『富村史』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733



竹田八号弥生墳丘墓



竹田八号弥生墳丘墓の土器棺
(復元・鏡野郷土博物館にて展示)



葡萄田頭遺跡の土壙墓群